



令和元年度
国立青少年教育振興機構
教育事業

全国高校生体験活動顕彰制度 報告書



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

全国審査会まで進出した皆さんがどのような取組をしたのか紹介します。

個人部門

埼玉県立川越女子高等学校
河藤 杏琴 さん

過疎化の進む山間部で暮らす河藤さんは、「地元への往来を増やしたい!」という想いから、地元の山を活用した「お手軽ハイキング」を広めるための活動を行いました。特に、子供と触れ合うボランティア活動の経験を活かし、子どもが飽きないよう工夫を凝らしたPRは、多くの家族の興味・関心を惹いていたようです。審査員からは、「考え方やプレゼン発表など高校生とは思えないくらい素晴らしいものだ!」といった声が聞かれ、その取り組みが高く評価されました。

[illegible]

グループ部門

徳島県立城ノ内高等学校
小出 彩未 さん 須藤 愛菜 さん

もともと部活動で地域活動に取り組んでいた2人は、様々なところから通学してくる学校の仲間たちに学校周辺の魅力あふれる地域を知ってもらい、愛着をもってもらうことを目的とした活動を行いました。2人も地域について知らないことが多かったため、自ら地域の人と繋がり、訪問し、体験し、地域の魅力あふれる地図を作り上げていました。プレゼン発表ではこの地図を使った更なる活動を計画していることが報告されており、2人の今後の活動が期待されます。

[illegible]

全国高校生体験活動顕彰制度審査委員会 審査委員長賞

個人部門

新潟県立高田北城高等学校 井澤 里帆 さん

大好きな地元をよりよくしたいという想いをもって井澤さんは、地元「高田世界館」という日本最古の映画館があることを知り、そこをアピールするためのイベントを実施しました。自ら映画館に向き、イベントを提案し、準備し、実行するまでに、たくさんの大人を巻き込みながら活動した井澤さんの行動力が高く評価されました。この活動は地元メディアにも取り上げられたとのこと、井澤さんの自信につながっているようです。

知ってほしい！地元の魅力 明治館の映画館と令和を生きる高校生を繋ぐ

井澤 里帆

なぜこのテーマで取り組みましたか？

私は生まれ育った土地が大好きですが、私の知らない土地の魅力はたくさんあります。高田世界館について、土地の歴史や文化を知りたいという思いから、Instagramは利用する高校生を多く見かけたので、高田世界館の魅力を伝えるためにInstagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。

当初、どのような仮説を立てましたか？

高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。

当初の仮説から変化した点はどこですか？

高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。

仮説で工夫した点はどこですか？

高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。

オリエンテーション合宿を通じて学んだこと、できるようになったことはありますか？

高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。

実践活動を通して、今後のように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。高田世界館の魅力を伝えるために、Instagramを活用しようと思いました。



グループ部門

北海道上富良野高等学校高校 岡田 海葵 さん 小玉 瞳 さん 田中 玖瑠未 さん 長谷山 歩乃佳 さん 保科 真春 さん

オリエンテーション合宿で訪れた地元農家の取組み(WWOOF(ウーフ)制度を活用した外国人旅行者の農業交流)に共感し、その取組みを国内外へ発信するためのパンフレット作成を行いました。パンフレットの作成にあたり、自分たちも農業体験を行ったり、外国人との交流をし、地元農業の理解を深めたこととです。また、プレゼン発表では寸劇風に報告を行うなど、グループ仲間ならではの工夫で会場を盛り上げていました。

地元の無農薬野菜の生産農家を知る 無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める

岡田 海葵

なぜこのテーマで取り組みましたか？

地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。

当初、どのような仮説を立てましたか？

地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。

当初の仮説から変化した点はどこですか？

地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。

仮説で工夫した点はどこですか？

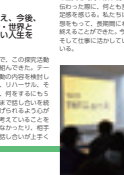
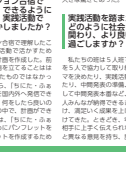
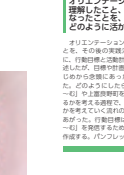
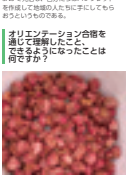
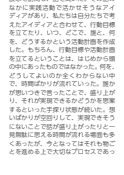
地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。

オリエンテーション合宿を通じて学んだこと、できるようになったことはありますか？

地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。

実践活動を通して、今後のように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。地元の無農薬野菜の生産農家を知る。無農薬野菜の生産農家を探索し、食と農業についての理解を深める。



事業の軌跡

オリエンテーション合宿から全国審査会まで、どのように取り組んだのか、彼女たちの軌跡を紹介します。

個人部門 河藤 杏琴 さん

バックグラウンドの異なる全国各地の高校生と活動を共にし、様々な価値観や考え方に触れた事は大きな刺激になりました。また、地域課題解決に向けた実践で重要となるのは、ターゲットの絞り込みと協力者の獲得であるという事を学び、理解した事がその後の活動に活かしました。



実践活動に関しては、活動当日よりもむしろ事前調査や準備にかなりの時間を費やし非常に大変でした。ですが、ここを丁寧に慎重に念を入れて行うことで、自信をもって活動でき、対象者が予想を上回る興味を示した事で、次の活動に向けた更なる意欲が湧きました。また、全活動を通じ、協力者の重要性を感じるとともに、強く感謝しました。

PC 操作に慣れないため、報告書の作成、プレゼン資料作成等、事前準備が大変でしたが、審査会でのプレゼン自体は緊張の中でも楽しく行えました。また、審査員の質問から新たな視点に気付き、今後の活動へのヒントが得られました。

他の発表者の様々な切り口とアプローチは大変興味深く、審査会全体を通じ有意義な時間を過ごせました。

プレゼンに関しては地方審査会で進んでいたため特段準備等も必要なく、程よい緊張感の中問題なく行えました。ですが、質疑応答の時間には、慣れもあったのか、地方審査会の時の様に集中できず、思うようなパフォーマンスができず私としては少々心残りでした。



～河藤さんの感想～

ゼロから一人で始めた地域創生活動。調査、検討、計画、踏査、準備、確認、練習、本番、評価、改善、反省の一連の活動は時間的に非常に大変でしたが、自ら考え行動する事で高校では学べない貴重な経験をしました。また、プレゼン資料を試行錯誤しながら作成した事でプレゼンテーションソフトのスキルアップが図れたことは思いがけない副産物でした。

私にとって今回の活動は、表彰や自己満足の為ではなく、寂れゆくふるさとを何とかしたいと始めた活動ですから、社会人になってからも何らかの形で目を向け、ふるさとを盛り立て、役に立っていきたいと考えています。



挑戦は続く…

本事業はこれで終了となりますが、高校生の「ストーリー」はまだ始まったばかりです。審査会では審査だけではなく審査員からの各発表に対する「フィードバック」が行われ、今後の活動に対する助言やエールが贈られました。

オリ
テー
合

カリキ
修

実践

報告
作成

地方審

審

全国審

To be

グループ部門 北海道上富良野高等学校のみなさん

エン
ション
宿

私たちの班はオリエンテーション合宿ではフィールドワーク「食・農業コース」で、町内で農業を営んでいる方に取材しました。活動の当初は、見通しの付かない部分も多かったのですが、この合宿を通して調べ、考え、まとめ、発表するという、一連の流れをつかむことができたと思います。



ュラム
了

私たちは地元農家で実践活動を行いました。そこでは無農薬で野菜を栽培しており、「WWOOF」という、農家が食事と宿泊を提供し、外国人が農作業を手伝う制度を使っています。実践活動でその制度に参加する外国人と、ほうれん草を収穫・パック詰めをしたり、採れたての野菜を使って料理をしました。普段できない、農家で料理をしながら外国人との交流はとても楽しかったです。



活動

書
提出

審査会の中でずっと思っていたことは、「こんなに緊張するんだ」ということです。実践活動で自分たちが得たもの、情報を班なりにまとめ、地方審査会に向けて練習を重ねました。そして当日、他の班が今まで以上に良くまとめながら発表していた様子を緊張しながら見ていたのを覚えています。



査会

全国審査会で私たちは農業体験を通して得た知識と感想を発表しました。他校生との交流の中で、プレゼンの仕方や伝わりやすい話し方、まとめ方のコツなどを学ぶことができました。緊張することも多かったのですが、幾度の審査会を通して、自分自身の向上に繋がったと思います。



査

～北海道上富良野高等学校のみなさんの感想～

この事業への参加を知らされた時、漠然とした不安を感じたことを覚えています。けれども活動を通して、不安は期待へと変わっていきました。オリエンテーション合宿で、実践活動の方法を学びました。初めはあまり積極的ではなかった仲間も、生き生きと活動し始め、各々の目標等が決まりました。地域の魅力を知っていくうちに、多くの事が見えてきて、無事にパンフレットを作り終え、目標を達成できました。人との関わり方や、伝えることの難しさ、そして何より、自分の住んでいる所に、こんなにも魅力があるのだという発見が、今後の自分をより成長させるきっかけとなったように感じています。

～北海道上富良野高等学校の先生の声～

生徒たちが主体的に活動に取り組む姿が見られました。実践活動協力者の力添えによる部分が大きく、最初は協力者にある程度主導してもらいながら、徐々に生徒たちの主体性が現れていきました。その要因として、今回の活動の中で、地域で活躍する方々や上富良野に来る外国人など、今まで生徒たちが接することのなかった人々たちとの関わりや地域の未知の部分に触れることが生徒たちの知的好奇心を高めてくれたからだと思います。また、地元町内会が活動に興味を持ってくれ、活動を発表する場や地域住民との交流・意見交換の機会を設けられました。当初は想定していなかったことでしたが、とてもよい機会になりました。今回の活動や地元住民との交流等を通じて、「地元は自分たちが作っていくもの」という意識が生まれたと思います。

continued

その他の活動紹介

他にも様々なアイデアのつまった活動がありました！

そうだ、松本を知ろう！

～松本市に住む貴重なチョウ「ゴマシジミ」を探～



松岡 大輝

長野県松本市立丘高等学校

長野県松本市立丘高等学校

松岡 大輝 さん

地域での実践活動を考える中で、「実は自分も地域のことについて、ほとんど知らない」ということに気づき、“まずは地域のことについて少しでも多くの人に知ってもらおう”という目的のもと、地元に生息する貴重な昆虫を子どもたちに紹介するという活動を行いました。「楽しみながら学ぶことが一番」という思いや人前での説明の仕方など、合宿で学んだことを大事にしながら活動を実施したとことで、学校の先生や児童センターに協力を仰ぐなど、周りの大人を巻き込むことによって、多くの子どもたちにこの活動を提供できた様でした。

上越高等学校

桑山 昂大 さん

地元の新井駅前商店街を活性化するため、訪れた人がゲーム感覚で、楽しみながら街を歩くことができ、歴史や地元ならではの情報を取り入れられるアクティビティを制作しました。自らの足で商店街をくまなくリサーチし、商店の方々へのインタビューを実施しながら、アクティビティを作り上げていく中で、“人と協力・協働”することの重要性を、身をもって感じることができ、これから社会に出ていく中で大切にしていきたいと語ってくれました。

演劇クエストを活用した新井駅前商店街の活性化

ENIGMA QUEST 北海道 新井町 タイムトラベラー編



桑山 昂大

上越高等学校

八景と十勝岳の生きもの



八木橋 佑樹

北海道上富良野高等学校

北海道上富良野高等学校

八木橋 佑樹 さん 山本 爽羽 さん 眞田 睦美 さん

戸田 もなみ さん 福田 晴妃 さん

オリエンテーション合宿でのフィールドワークで訪れた十勝岳の魅力を多くの人たちに知ってもらいたいという思いから、活動を行いました。すでにビューポイントを紹介するようなパンフレットがありましたが、彼らはそこに、自分たちで見たり調べたりした野生動物の情報など、新たな魅力を追加した「オリジナルマップ」を作成しました。町の魅力がさらに広がって、今よりもたくさんの人たちに来てもらえる町になってほしいと願っているとのことでした。

興國高等学校

平田 七海 さん

オリエンテーション合宿でのフィールドワーク（自然体験活動）がきっかけとなり、「自然の素晴らしさ」を伝えたいと感じたそうです。しかし、活動のフィールドとして考えていた近所の山には不法投棄が多くあったことから、①ゴミ拾いをする、②子どもたちにこの現状を知ってもらい、自然を大切にする気持ちを持ってもらうことに取り組みました。活動を実施する中で、身近な自然を通じて環境問題に興味をもち、これから先も「自然との共存」の大切さを伝えていきたいと語ってくれました。

自然と共存する
これからの社会のために出来る事



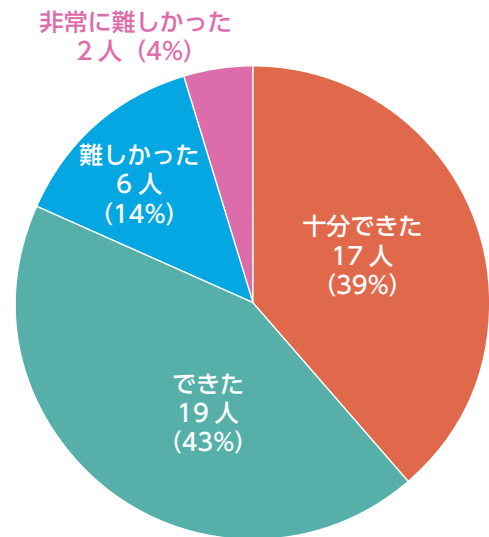
平田 七海

興國高校

参加者の感想

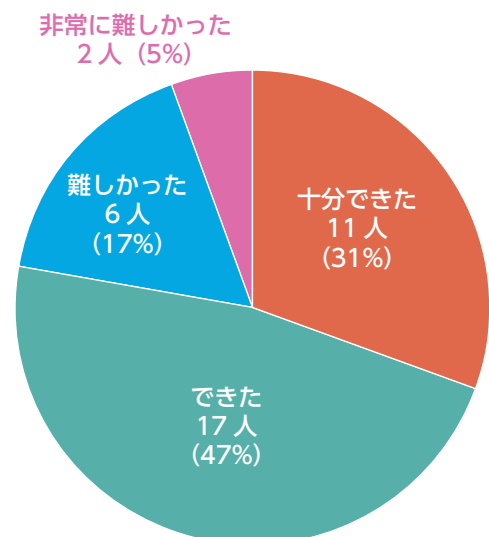
オリエンテーション合宿は 楽しく学ぶことができましたか？

- ▶ みんなで夜遅くまで話し合えたことが楽しかった。
- ▶ 最少は不安も大きかったが、素敵な仲間と出会うことができた。
- ▶ 自分の知らない地域で初めて歩く道で初めて会った人と交流できて楽しかった。以外にも自分の地域と重なる部分が多く、新たな発見・気づきがあった。
- ▶ 講義だけでなく、実際に実践活動をイメージできる活動ができた。
- ▶ 自分たちで色々なことを調べたりするのが大変だった。



オリエンテーション合宿の内容を 実践活動に活かすことはできましたか？

- ▶ インタビューや情報のまとめ方が活かせたと思う。
- ▶ オリエンテーション合宿で出会った人たちのおかげで、地域には課題があるということ、私たち若い世代に協力したいと考えている大人の存在に気付くことができた。
- ▶ オリエンテーション合宿で学んだことを活かして、どこが課題かなどを自分で見つけて解決に向けた活動ができた。



その他、参加者の声

- ▶ このような経験が初めてで難しい部分もあったけど、協力してくれた方々があたたかく、十分に活動することができた。協力してくれた友達は「よかった」と言ってくれ、活動を知った友達は「すごい」と言ってくれた。先生からも褒めていただき、クラスで紹介してくれたことがうれしかった。
- ▶ 今回の活動をする前は県外に出たいという気持ちが強かったが、地域の人々の温かさを感じ、将来地元に戻ってきたいと思った。
- ▶ とても有意義な活動だった。この活動をする人が一人でも多くなり、地域そして世界がよりよくなっていくよう、自分も今後この活動に取り組み続けたいと考えている。
- ▶ 高校生活の中でとってもいい思い出になりました。また機会があればみんなに会いたいな～って思うほどとっても楽しかったです。



今年度実施概要

